

撮影者 / 米軍 (広島平和記念資料館 提供)



せんいち町内会報

千田町一丁目
町内会
090-8358-6076

ふりかえりの塔
慰霊祭 特別号

明日への語りべ

今年も、もうすぐ8月6日がやってきます。ふりかえりの塔慰霊祭は昨年
に続きコロナ禍となり、語り部会を催すことができません。町内会では慰霊
碑に刻まれたあの日のことを伝承すべく今年は、4年前の語り部会での弘法
愛子さんのお話を、ご承諾を得て掲載させていただきました。

いつまでも平和が 続く事を願って

弘法 愛子

私はここで生まれて育ち、木造
2階建のこの場所にあった家で
原爆にあいました。青い黄色い光
が見えた瞬間、気が付いたら家の
下敷きになっていました。

真っ暗で何にも見えなくて、
「助けて…助けて…」叫んでいる

と、上から父の呼ぶ声が聞こえて
きました。頭を上げちゃいけない、
前とか右・左とか聞きながら
やっと這うようにして外に出ら
れました。

外に出てみると家はすべてつ
ぶれて、履物を履こうにも見当た
らず、そのうちに隣の家の男の子
が「おねえちゃん」としがみつい
て来ているんですね。

道路は今のような歩道はあり
ませんで、車道と電車通りに大き
な黒いかたまりが歩いているん
ですね。

どうしてこんな事にと見渡し
ても、どこにも直撃弾を受けてな
く大きな穴も開いておりません。
黒い塊りが、火傷を負いながらぞ
ろぞろ歩いていました。ポロポロ
になった着物を女の人も持ち上
げて、見ておられないかっこうで
…。その後について流されるよう
に歩きました。最初に赤十字病院
に入ろうと、男の子の手を引いて
行ったのですが次から次とひど
い火傷の人が来て、ここはだめだ

とまた歩き、すると貯金局から女
の人が、顔から血もぐれで跳び出
てきてびっくりしたのですが、男
の子が「おねえちゃんも血もぐれ
だ」と言うんですね。

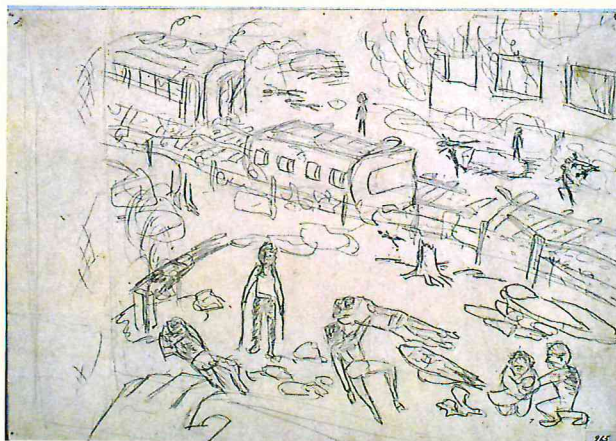


南大橋から、市役所－日赤－貯金局－広島電鉄 作者 / 原 美味 (広島平和記念資料館 所蔵)

その時、ワンピースを着ていたんです。空襲警報が一度鳴って、それが解除になったもので…。ワンピース1枚で倒れた家の戸が、ガラスだったものですから、這って出た時には頭・顔、手も足も血まみれになっていました。

やっと御幸橋までたどり着くと、下に降りて川の水で血もぐれの顔を洗い流すことができました。

御幸橋を渡り、共済病院今の県病院へ、ハダシでとにかく熱いん



倒れた電車と傷ついた人々 作者/浜岡 英枝 (広島平和記念資料館 所蔵)

ですね…。

共済病院に入って、スリッパの代わりにわらで編んだ草履があったもんですから、男の子に履かせて私も履かせてもらいました。

共済病院で記憶に残っているのは、そこに入ってからすぐに、私の縁をタッタタッタ…と子どもが走っていったと思うと、「うわー…」という大きな声を出してそれっきり静かになり、あの声は断末魔の声ではなかったのかという思いです。

それから、兄嫁の親戚が仁保にありまして、何かあれば集まるという話がありましたので、また暑い中歩いて着いたのがおおかた夕方ぐらいでした。

おむすびをいただいたて、山に繋がった大きな家でしたから「今晩はあぶないから、その山で寝なさい」と言われ上がると、親戚の人が待っていてくれました。

山の上上がったたら広島が、ちよつと赤く見えたんですね。ああ燃えているんだと思いまし

た。家を出る時に隣の家の台所から火が出ったから、絶対火事になっていと思いました。その日はそのまま山の中で野宿しました。

翌日はほんの明るくなったころ、この家には兄嫁たちも来ていなかったから長く居れないと思って、また男の子を連れて千田町まで離れてしまった親を探しに行き、焼けて何にもないので



仁保の山

西田さんあたりに着いたのが、お昼を過ぎていました。

そこでたまたま会った西田さんにむすびを一ついただいて、あちこち探し回りましたが焼けて何にも無くどこにもいません。どうしようかと困っていると、鷹野橋の知った方がいて「今晩はこの防空壕で寝なさい」とおっしゃってくれました。

私はとなりの男の子を何とかしなければと、8日になりますが夜明けとともに、暑い中ですから



自宅あたりからの日赤病院 撮影者/米軍 (広島平和記念資料館 提供)